様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 １６ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２００９４

研究課題名（和文）介護と看取りの現場に根ざした近世日本思想史研究の構築

研究課題名（英文）A study of Japanese early modern intellectual history in the field of care

研究代表者
本村　昌文（MOTOMURA, Masafumi）

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：８０３２２９７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,100,000円、（間接経費）　930,000円

研究成果の概要（和文）：介護と看取りの現場と近世日本思想史研究の接点を構築し、現代日本社会に生じている介護と看取りの諸問題の解決に資する死生観の解明を行った。本研究では、17世紀日本の死生観と介護・看取りの現場とのつながりを検討し、伝統的な死生観のもつプラス面とマイナス面を明らかにした。またこうした作業を通して、伝統的な死生観をもとにして、介護と看取りを支える精神的基盤を再構築していく端緒を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：This study made a point of contact between the field of care and the research of the intellectual history in the early modern Japan, and explained the view point of life and death which will be useful for the solution of the problem of care in contemporary Japan. In this study, I examined the relation between the view point of life and death in 17th century and the field of care, and weighed the advantages and disadvantages of its view point. By this study, I found a clue which will reconstruct the mental base by the traditional view point life and death for the field of care.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学　思想史

キーワード：死生観　介護　看取り　思想史

１．研究開始当初の背景

日本では、1970 年代後半に在宅死の割合が病院死のそれを逆転して以降、病院死は増加の一途を辿り、現在、日本人の 80%以上が病院で死を迎える。しかし、近年の医療制度の改革により、病院の機能は治療の場として特化され、療養および看取りは地域社会で担うという状況が生まれつつある。一方、2005 年に実施された厚生労働省の調査によれば、介護者の 4 人に 1 人がうつ状態にあると指摘され（『朝日新聞』2006 年 4 月 20 日）、療養・看取りの受け皿となる地域社会では、介護疲れによる虐待や自殺、老人の孤独死をはじめ、様々な問題が噴出している。

このような状況において、東京大学のグローバル COE「死生学の展開と組織化」をはじめ、医療や介護の現場と接点をもちつつ、人文学研究の諸分野から地域社会で介護と看取りを行う文化の再構築を目指す研究が進められている。こうした研究動向の中で、「重い役割を担う」研究分野として、日本思想史研究に対し積極的な参画が求められているにもかかわらず（島薗進「思想史からの死生観研究は死生学教育の礎石の一部である」、『年報日本思想史』6、2007）、いまだかかる視点からなされた研究はほとんどないのが現状である。

また広井良典氏は、現代日本人の死生観を原・神道的な死生観、仏教やキリスト教的な死生観、科学的・近代的理解にもとづく死生観の三層からなると捉え、その上で「私たち現代人あるいは現代日本人にとって大事なのは、特に戦後の高度成長期に次々と脇にやり忘れていった第一・第二の層を、もう一度確かめ、そことのつながりを回復し、何らかの着地点を見出していくことではないだろうか」と指摘している（「生と死の時間―〈深層の時間〉への旅―」、『死生学〔1〕死生学とは何か』所収、東京大学出版会、2008）。こうした日本における死生観に関する研究は、日本思想史研究の担うべき重要な課題といえる。

死生観に関わる問題に対して、これまでの日本思想史研究は数多くの成果を積み上げてきた。しかし、その多くは日本人の精神構造や考え方の特色、またそれらを根底で規定するものを歴史的に明らかにすることを目的としたものであった（相良亨『日本人の死生観』、ぺりかん社、1984）。このような従来の研究は、広井氏の指摘する原・神道的な死生観、仏教やキリスト教をはじめとした諸宗教の死生観の構造とその日本的特質を「確かめ」ることに力を注ぎ、そこで明らかになった死生観と現代社会との「つながりを回復し、何らかの着地点を見出していくこと」には目を向けてこなかったといえよう。

本研究は、上記の研究動向をふまえ、既存の死生観がリアリティを失い、前時代とは異なる新たな死と生の意識が形成される１７世紀日本における死生観を中心に、伝統的な日本における死生観と現代の介護と看取りの現場とのつながりを吟味し、現代日本の介護と看取りの現場に資する文化的資源の発掘を目的としている。

２．研究の目的

本研究は、思想史的観点から日本における介護・死・看取りの対する意識構造（死生観）の変遷を明らかにし、現代の介護と看取りの現場に資する思想的資源を探求するという全体構想の中で、以下の 3 点を研究目的としている。

（1）中世の死生観をふまえつつ、17 世紀日本における儒教・仏教・神道の諸思想における死生観の形成と展開を明らかにする。

（2）（1）で明らかにした成果と当時の庶民レベルの死生観とのすりあわせを行い、17 世紀日本における死生観の全体像を明らかにする。

（3）（2）の成果と現代日本の介護と看取りの現場とのつながりを検討し、伝統的な日本の死生観の再評価と新たな意義づけを行う。

３．研究の方法

研究方法は、（1）基礎資料の収集と整理、（2）資料の分析、（3）介護と看取りの現場との研究成果のすりあわせ、の 3 点である。

（1）については、近世日本思想史研究における死生観に関する研究史の整理、17 世紀に作成された近世往生伝の資料のデータベース化を行った。（2）については、17 世紀日本における儒教、仏教、神道に加え、上層農民の日記を分析し、当該時期の死生観の多角的な把握を試みた。（3）については、医療・介護従事者、家族介護者をまじえた座談会の場を形成し、定期的にセミナーを実施し、研究成果と介護・看取りの現場とのつながりの検証を行った。

４．研究成果

主な研究成果は、以下の通りである。

（1）17 世紀日本においては、来世のリアリティが後退する一方で、朱子学をベースとした前時代とは異なる死生観が形成されてきたこと、その死生観においては、朱子学の死生観に忠実でありながら、死後の霊魂の消滅するスピードを問題化する理解、朱子学の核心部分（死後霊魂は消滅するという理解）が

捨象され、死後も霊魂がこの世に残存するという見解も示されるなど多様な死生観が展開していたことを明らかにした。

（2）現代日本の介護と看取りの現場で問題となる「人に迷惑をかけたくない」と意識に焦点をあて、医療・介護従事者、家族介護者が参加する座談会を行った。その結果、「迷惑をかけたくない」と意識には、他者への配慮と自分のプライドの保持という二つの側面があること、さらに現代日本と近世日本社会の意識とを比較してみると、現代ではこの意識がマイナスに作用することが多く、プラスに転化する価値観が見失われていることが明らかになった。

（3）急速に少子高齢化の進む中国の研究者と本研究課題についてシンポジウムを開催し（蘭州大学、西安外国語大学）、今後共同研究を展開していく基盤を構築することができた。

（4）今後は死・死後観のみならず、老いや自身の寿命の自覚をはじめとする死に至るまでの生き方にも焦点をあて、より広い角度から死生観の分析を深化させていくとともに、国際的な比較、共同研究を展開していく必要がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３件）
本村昌文、治癒と臨床、『日本思想史講座』第 5 巻、掲載確定

本村昌文、迷惑をかけない終わりとは何か－介護と看取りの座談会回顧－、「介護と看取りの現場に根ざした近世日本思想史研究の構築・研究報告書」、査読無 pp.15-19、2014 年

本村昌文、無窮会専門図書館天淵文庫蔵『孝経刊誤考例』、『日本政治思想史研究』44、査読無、pp.68-85、2012

〔学会発表〕（計　１０件）
本村昌文、迷惑をかけない終わりと何か－「終活」を問い直す－、人権講演会、2013 年 12 月 7 日、広島県三原市／大和人権文化センター

本村昌文、ケアの現場に根ざす新たな思想史・文化史研究の構築に向けて－、日本学術振興会・二国間交流事業・オープンパートナーシップセミナー「介護と看取りの現場に根ざす新たな思想史・文化史研究の構築」、2013 年 11 月 2 日、中国・北京日本学研究センター、2 日）

本村昌文、現代の介護・看取りと日本思想史研究の接点、西安外国語大学日本文化研究会シンポジウム「伝統的死生観から考える介護と看取り」、2013 年 9 月 27 日、中国・西安外国語大学

本村昌文、迷惑をかけない「終わり」とは何か－介護と看取りの座談会・中間報告－、介護と看取りのフォーラム、2013 年 2 月 24 日、宮城県仙台市／片平さくらホール

本村昌文、福祉再考－介護者サポートの現場から－、タナトロジー研究会シンポジウム、2013 年 2 月 16 日、宮城県仙台市／太白区文化センター

本村昌文、17 世紀日本における死生観－中村惕斎を中心に－、北京日本学研究センター・中華日本学会・日本国際交流基金共同主催、中日国交正常化 40 周年記念国際シンポジウム「日本研究の新展開」、2012 年 12 月 2 日、中国・北京日本学研究センター

本村昌文、霊魂の行方－17 世紀日本の死生観と現代の介護・看取りとの接点－、蘭州大学日本語・日本文化研究会、2012 年 9 月 14 日、中国・蘭州大学

本村昌文、日本思想史からみた現代日本の介護と看取り、蘭州大学学術講座・招待講演、2012 年 3 月 16 日、中国・蘭州大学

本村昌文、生と死をみつめる生活支援、日本介護福祉士養成施設協会・平成 23 年度全国教職員研修会・シンポジウム、2011 年 11 月 26 日、大分県別府市／ビーコンプラザ

本村昌文、すみやかに消滅する「霊魂」－17 世紀日本における朱子学の死生観－、国際シンポジウム・東北アジアにおける多文化共生の実態研究、2011 年 8 月 3 日、中国・内モンゴル・シリンホト

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

本村昌文　死と向き合う－やがて来るその日のために　第1回～第4回、シルバー新報 2012年4月13日号・27日号・5月11日号・25日号、2012年

アウトリーチ
2011年9月16日、介護と看取りのセミナー、宮城県仙台市、東海林良昌（浄土宗総合研究所）「浄土宗の死生観」

2012年1月21日、介護と看取りのフォーラム、宮城県仙台市
第1部「現代日本における介護・看取りと伝統的死生観」
中村安宏（岩手大学教授）「江戸時代知識人の死生観」
川島大輔（北海道教育大学准教授）「現代日本における死と宗教－死者と生者をむすぶ物語－
第2部「留学生からみた介護と看取り」
葛睿（東北大学大学院博士後期課程）「中国における伝統の「孝」と現代の看取り（ターミナル・ケア）－いかによい最後を迎えるかを中心に－」
アリア・ラタヴィラクン（東北大学大学院博士後期課程）「タイにおける高齢者の介護・終末期の看取り方」

2012年2月17日、介護と看取りのセミナー、神奈川県川崎市、本村昌文（東北大学史料館協力研究員）「死と生をみつめる江戸の人々－現代日本の介護・看取りと伝統的死生観との関わりをめぐって－

2012年2月25日　介護と看取りのセミナー、宮城県仙台市、柴田範子（東洋大学准教授、特定非営利活動法人・楽理事長）「個別の人生観をもつ方々の終末にかかわって

2012年4月21日、介護と看取りの座談会、宮城県仙台市、「迷惑をかけない終わりとは何か？－介護を受けること、死を迎えること、それは迷惑なのか－」

2012年5月19日、介護と看取りの座談会、宮城県仙台市、「迷惑をかけない終わりとは何か？－介護を受けること、死を迎えること、それは迷惑なのか－」

2012年7月28日、介護と看取りのセミナー、宮城県仙台市、小泉礼子・村上麻佑子（東北大学大学院博士後期）「近世の死と看取りの形－近世往生伝を通して考える－」

2012年8月3日、介護と看取りの座談会、宮城県仙台市、「迷惑をかけない終わりとは何か？－介護を受けること、死を迎えること、それは迷惑なのか－」

2012年11月16日、介護と看取りの座談会、宮城県仙台市、「迷惑をかけない終わりとは何か？－介護を受けること、死を迎えること、それは迷惑なのか－」

2012年11月17日、介護と看取りのセミナー、宮城県仙台市、小田島健己（東北大学専門研究員）「死者を表すモノを用いた死者供養」

2012年12月9日、介護と看取りの座談会、東京都杉並区、「迷惑をかけない終わりとは何か？－介護を受けること、死を迎えること、それは迷惑なのか－」

2013年2月24日、介護と看取りのフォーラム、宮城県仙台市
第1部「現代の介護・看取りを考える－伝統的死生観からのアプローチ」
西村玲（公益財団法人中村元東方研究所研究員）「往きて還りて窮まり無し－看取りを拓く－」
本村昌文「迷惑をかけない終わりとは何か？－介護と看取りの座談会・中間報告」
第2部「介護・看取りの諸相」
オニスチェンコ・ヴャチェスラヴ（一般財団法人東北多文化アカデミー研究員）（ウクライナ）
齋藤芳理子（東北福祉大学4年生）（日本）

2013年3月9日、介護と看取りのセミナー、神奈川県川崎市、第1部、西村玲「日本仏教の看取りと死」、第2部座談会「迷惑をかけない終わりとは何か？－介護を受けること、死を迎えること、それは迷惑なのか－」

2013年7月12日、介護と看取りの座談会、東京都杉並区、フリーテーマ

2013年9月21日、介護と看取りの座談会、東京都杉並区、なぜ社会（全体）で介護を支えるのか？-〈介護の社会化〉の根拠を問う-

2013年12月21日、介護と看取りの座談会東京都新宿区、介護者を支える人の介護体験を聞く介護と看取りのフォーラム・計2回（2012年1月21日、2013年2月24日）

６．研究組織
(1)研究代表者
本村　昌文（MOTOMURA Masafumi）
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授
研究者番号：80322973

研究協力者
渡辺　道代（一般社団法人日本ケアラー連盟理事）

和田　有希子（早稲田大学日本宗教文化研究所客員研究員）